

下野市道徳教育研究

はじめに

昨年度の研究において、小学校に続いて中学校で道徳科がスタートすることにより、授業づくりとともにどのように子どもの姿を見取り評価をしていけばよいのかが課題に挙げられた。

そこで、今年度は授業づくりと評価をテーマとし、校内研修等の取組をもとに研究を進めた。

1 市道徳教育研修会の研究授業から（石橋中学校の取組）

- (1) 主題名 正義の実現 C-（11）公正・公平
- (2) 資料名 「3月のライオン」で考えるいじめのこと（出展：NHK for School より）
- (3) 資料について（指導観）
 中学校に入って3ヶ月が過ぎて中学校生活にも慣れ、出身小学校以外の人間関係が広がってきている中で、好き嫌いという感情から差別や偏見をもつ動き（いじめ）が起こったときに、その動きに同調せずに、許さないという断固とした姿勢と、力をあわせて積極的に差別や偏見をなくそうと努めようとする心情・行動を育てたい。
- (4) 本時のねらい
 「ひなた」の行動を考えることを通して、いじめを許さず、積極的にいじめをなくそうと努めようとする心情を育てる。
- (5) 授業の視点
 「動きたくても動けない」のはなぜか。なぜ「ひなた」はこのような行動や考え方を持つことができたのか。「いじめをしない動き」や「いじめをとめる動き」そして「後悔をせずに孤立に耐えていこうとする動き」を容易にできないわけを考え合いながら、「動き」をおこそうとする心情を育てたい。
- (6) 本時の指導 ◎学校課題との関連 ○人権教育上の配慮

	ねらいと資料分析	学習活動と主な発問 予想される生徒の反応・つぶやき等	教師の支援のポイント
導入		1 『3月のライオン』のポスターを紹介する。 2 登場人物を紹介する。	・ポスターを見て関心を高める。
展開A		3 映像資料を見て、「ちほ」と「ひなた」について感想を自由に語り合う。 (scene01~03) ・ちほがかわいそう。 ・ひなたはすごい。 ・自分にはできない。 ・こんなことひどい。 4 ビデオの続きを視聴し、「教室内の上下関係は誰が決めるの?」というひなたの問いかけにどう答えるか考える。	・自分たちの生活事実や実感をこめながら、しっかりと話し合いの時間をとる。 ・「すごい」「尊敬する」といった距離感のある感想ではなくなるよう、切り返しをしていく。 ・自由に感想をいってもらう中で、「みんなだったらどうする?」と切り返す。 ○班で話し合い、どんな意見でも、しっかりと聞き合えるよう指示する。 ◎無理に意見をまとめようとする必要はなく、自分の意見ははっきりと伝えるよう指示する。 評価①「いじめはよくない」と分かっているのに、それをとめることができないのはなぜか、自分のこととして考えることができた。(観察・発言) ・ビデオ視聴のため、机を戻す。 ・グループで意見を出し合い、考えを深める。 ・上下関係を作り出しているのは自分たちであることに気付かせる。 ○班で話し合い、どんな意見でも、しっかりと聞き合えるよう指示する。 ◎無理に意見をまとめようとする必要はなく、自分の意見ははっきりと伝えるよう指示する。 ・何人が指名して全体で共有する。 ・発表させる。 ・全体発表の中で切り返ししながら、価値の自覚を深めていく。

		<p>5 上下関係をなくす、つくらないためにはどうしたらいいか、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を認め合う。 ・差別をしない。 ・誰かの意見に流されない。 ・自分で判断する。 <p>6 「もし、自分がいじめられたら…いつ、誰に、どう動いてほしいか？」具体的に考え発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて、各自の願いを共有させる。 ・この発問を通して、自分の問題としていじめをとらえられるようにする。 <p>評価②「いじめをとめる」ために、自分に何ができるかを考えることができた。(WS)</p>
終末	C-(11)	7 授業を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・最後にいじめが解決した後に「ひなた」が言った「許さなくていいですか？」という台詞・場面を紹介する。

(7) 授業研究会の協議から

- ・生徒が活発に発言して、自分のこととして考えていたところが良かった。教材の良さ、考えられた発問、授業の進め方などに、生徒に深く考えさせるための仕掛けがあった。
- ・現代的な課題となっている「いじめ」のテーマに直接的に切り込んでいく授業であったが、映像資料やグループ活動を通して、子どもたちが真剣に考え、よく取り組んでいて、内容項目に迫っていた。
- ・生徒の発言をつなぐ教師の活動の重要性を実感した。
- ・「自分がどうしてほしいか」のところをもっと共有する時間があると、さらに価値観が高まったのではないか。
- ・ほとんど板書をしていなかったが、生徒が考えなどを整理するのに大切なので板書すべきという意見と、今回の授業では必要がないという意見があった。協議会でも、様々な意見が出ていて、多様な見方を学んだ。



2 関連した価値項目を連続的に扱う指導(石橋小学校の取組)

☆小学校第3学年の授業実践

子どもたちが問題意識をもって主体的に学習に取り組むことができるように、関連した価値項目を扱う複数の教材を続けて学習することを試みた。学びの連続性を生かした子どもたちの追究が、道徳的価値の理解を深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることにつながるように授業の計画を立て実践した。

(第1時)

- | | | |
|--------|--|--------------------|
| 1 主題材名 | がんばりパワーをもち続ける | A-5 希望と勇気、努力と強い意志 |
| 2 資料名 | すきなことから 高橋尚子物語 | (出典：学研「みんなの道徳」3年生) |
| 3 目標 | ○自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜こうとする。 | |

(第2時…本時)

- | | | |
|--------|--|--------------------|
| 1 主題材名 | 自分らしさを生かす | A-4 個性の伸長 |
| 2 資料名 | 鬼太郎をかいたゲゲさん | (出典：学研「みんなの道徳」3年生) |
| 3 目標 | ○他の人々の多様な個性や生き方に触れることを通して、自分の特徴について考え、長所を伸ばしていこうとする。 | |

○本時の展開

◎研究主題との関連

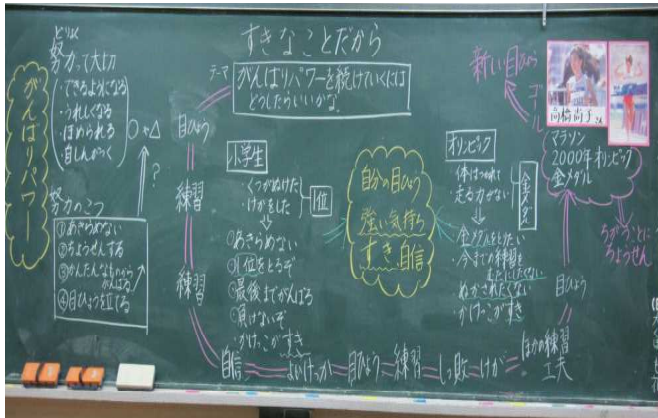
◆人権教育の視点

学習活動 と主な発問	教師の支援
<p>1 自分の特徴は何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足が速い ・好き嫌が多い ・字が乱暴 ・おもしろい <p>2 自分の特長を伸ばすために大切なことは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力する ・練習する ・目標をもつ ・あきらめない ・もっと好きになる <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>良いところをのばしていくために大切なことってなにかを考えよう。</p> </div> <p>4 資料「鬼太郎をかいたゲゲさん」を通して、「自分らしさを生かす」について考えを深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>水木さんのすごいところはどんなところだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・片腕を無くしても絵を描いた ・絵が売れなくても描き続けた ・絵が好き ・成功するんだという気持ちがあった <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>水木さんが、がんばることができたのはなぜだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対に売れる作品を描きたかったから ・喜んでもらえる作品を描きたかったから ・あきらめずにがんばろうと思ったから ・作品の話工夫してみようと思ったから <p>5 水木さんの生き方から、「自分らしさを生かす」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなことに一生懸命に取り組むってすごい ・自分の長所を伸ばすのは簡単ではないが、努力したり工夫したりして頑張ると夢が叶う <p>6 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P81 広げよう「あなたのよいところ」を読む。 	<p>◎ これまでの学習体験や生活経験をもとにして、自分の特徴について考えさせる。また、友達との交流を通して、新たに自分の特徴に気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何かを成し遂げるために大切なことは何かを考えさせ、本時の学習の問題意識をもたせる。 ・ 児童は、自分の短所や不得意なことに目がいきがちである。そこで、自分の得意なこと、好きなこと、楽しいと思えることに気付かせ、自分のよさを生かし、磨いていくことで特長にまで高めていこうとする意欲をもたせたい。 ・ 主人公の生き方や心の葛藤に迫り、「自分らしさを生かす」についての話し合いの焦点化を図る。 ・ 戦争で左腕を失った水木さんが、子供の頃から好きだった絵と妖怪を生かして漫画家になり、売れない時代を乗り越えながら作品作りに情熱を燃やした生き方に触れることで、自分の特徴である長所を伸ばして、自分らしさを発揮して生きることの素晴らしさに気付かせたい。また、ここでは、才能だから必ずしも伸びるものではないことや自分の特徴に気付き、ひたすら磨き続けてきたという努力と工夫で自分の特徴を特長にすることができるのだということにも気付かせたい。 <p>◆ 漫画家として活躍するということは、単に才能や運だけの問題ではないことや、自分の好きなこと、得意なことをどのようにしていくかが大切なのかを話し合わせたい。また、うまくいかない時には、どのように向き合っていけばよいのかについても考えさせて話し合いを深めていきたい。</p> <p>◎ 前時「好きなことだから」の学習で考えた頑張りパワーを持ち続ける秘訣についても想起させ、自分とのかかわりの中で主人公の生き方について追求させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公の生き方を通して、自分の長所を伸ばしていくことの意義を友達の意見を参考にしながら多面的・多角的に捉えさせる。 <p>◆ 初めの問いに戻り、本時の板書や日常生活を振り返りながら、自分自身の意識や価値観の変容を自覚させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達との交流を通して、互いの良いところを教え合い、自分自身の特徴を、光り輝く特長に磨き上げていこうとする意欲をもたせる。

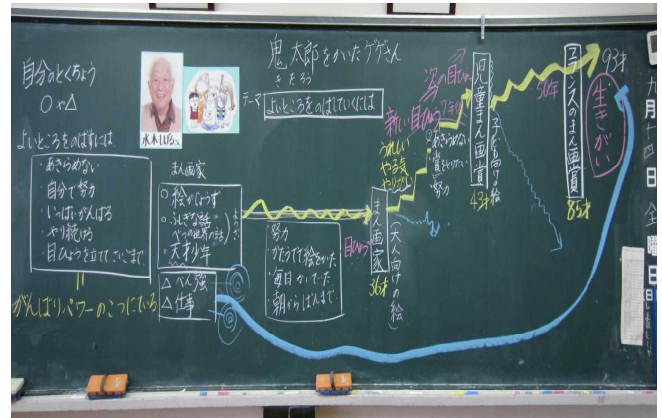
○ 授業における指導のポイント

- ・ 前時「好きなことだから」の教材と、本時の教材を続けて学習することで連続性のある学びを追求し、道徳的価値の理解を深めることができたか。
- ・ 道徳ノートを活用することで、自分自身の思考を整理し、授業後の意識の継続につなげることができたか。 → 評価への取組

○ 授業の取組
【 板書 】

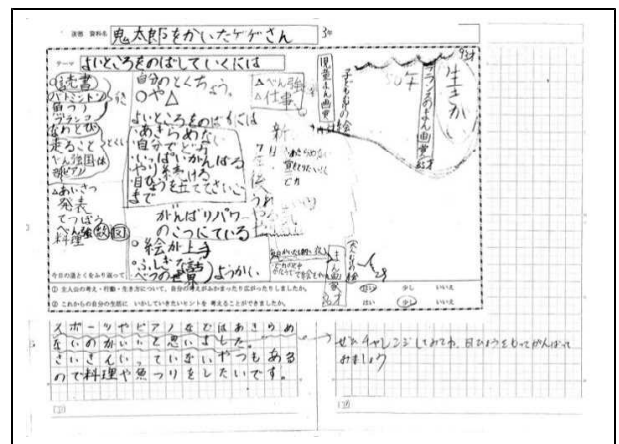
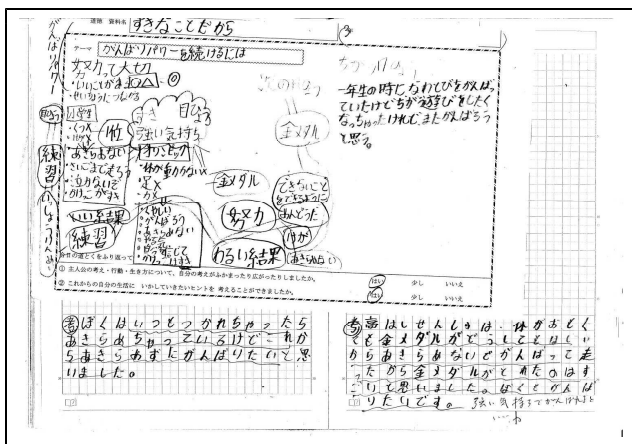


(第1時)「好きなことだから 高橋尚子物語」



(第2時)「鬼太郎をかいたゲゲさん」

【 ワークシート 】



○ 成果

- 導入 (学びの必然性のある導入) について
前時では、「努力する秘訣は」、本時では、「自分の特徴は」と問うことで、自己実現に向けた自分の生き方を考えるという思考のつながりを大切にすると共に、これまでの学習体験や生活経験を基にして考えることができた。また、学習テーマを自分にとって考える必然性のある「問題」として捉えることで、本時の道徳的価値の視点について一人一人が、問題意識をもった上で話し合いを進めることができた。
- 発問 (考える価値がある問い) について
本時は、「良いところをのぼしていくために大切なことって何かを考えよう」という学習テーマを設定した。これは、前時の学習で、「がんばりパワーをもち続けるにはどうしたらいいかを考えよう」について追求したことを基に、子供たちの学びの連続性を意識した問いを投げかけて、関連する道徳的価値の理解を深めていくという授業計画に基づくものである。前時は、高橋尚子さんの生き方を通して、目標に向かってあきらめずに努力することの意義について、自分の生き方との関わりを考えながら価値に迫ることができた。また、本時では、水木しげるさんの生き方を通して、自分の長所を伸ばしていくことの意義について、前時の学びを生かしながら多面的・多角的な思考で価値に迫ることができた。

○ 道徳ノートについて

子供たちの話し合いや自分の考えをまとめる際、言葉でまとめさせることは重要である。今年度は、毎時間道徳ノートを使用して学習の記録として活用してきた。道徳ノートは、友達のかえから学んだことや、意識の変容などを記述するための便利なツールである。子供たちのノートの記述については、板書の丸写しはしないというルールで、形式にこだわらずに自由に書かせている。学習の記録をノートに蓄積させることで、自分自身の思考を整理し、授業後の学校生活への意欲の継続に発展させることに役立った。

○ 課題

○ 評価につながる道徳ノートについて

道徳ノートは、子供たちの学習の記録を蓄積したものである。話し合いの中で出た友達の意見をどのように記録しているのか等から、教師自身が、子供たちの思考の流れや意識の変容を多面的に捉え、子供たちの価値に対する考え方を多角的な見方で見取る力を養っていくことが、道徳の評価に結びつくということを実感した。

また、子供たちが価値について深まったことや新たに気付いたことを、自分なりに工夫してノートにまとめることで深めていく学びがあると考え。そこに教師が子供一人ひとりにコメントを返すことは、道徳の時間の学びを意味付けたり、子供の気付きや成長を促したりする役割を果たすことになるのではないかと考える。さらに、道徳ノートを教師自身の授業評価として活用していくことで、今後の授業の改善につなげたい。

3 緑小学校の取組

要請訪問

- ・10月24日(水) 第5校時 研究授業 1年『くりのみ』
講師；下都賀教育事務所 阿部 信太郎 副主幹
下野市教育委員会 白石 孝子 指導主事

全教員による参観

- ・参観者は、予め抽出した評価対象児童の学習の様子を追跡観察する。



授業研究会

①グループ協議

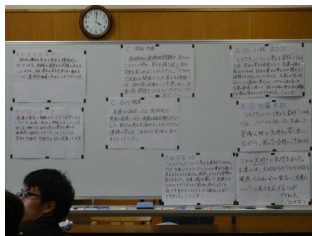
- ・参観者は評価対象児童ごとにグループを作り、対象児童の学習の様子をどう評価し、どのような所見文に表せばよいか、協議・試作する。

②全体会

- ・対象児童の学習の様子を説明しながら、それを基に試作した所見文を全体で紹介する。
- ・所見文の表現・文字数等について協議する。

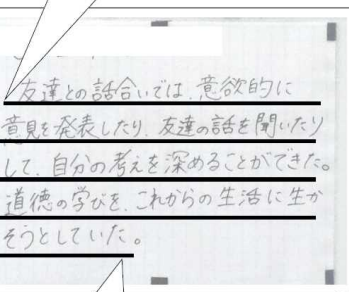
③指導・助言

阿部副主幹・白石指導主事より、所見文の表現・文字数等についてご指導いただく。



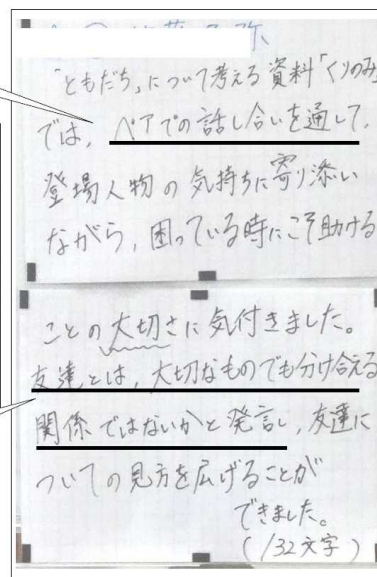
授業中、児童の学びの様子を記録し、その内容について協議しました。

自分と違う立場や考え方を理解しようとしたことを示す。



生き方に関わる自分の願いや課題を捉えていることを示す。

教材を通して、自分なりに道徳的価値を理解していることを示す



学習指導だより「道徳」の評価に関する覚え書き① H30. 10. 22 No.06

あさって24日の道徳授業研究会での研修方法については、指導案にあるように、参観授業での児童の見取りを「所見文」に表してみる、という内容で行うこととした。A・B・Cグループごとに研修で所見文を考えて欲しい児童名(とその座席)については指導案最後のページの通りだが、当日氏名入りの座席表が改めて配布されることになっている。初めてその子たちについて観察・理解する45分間をもとに「所見」がもてるのか、という疑問は脇によけて、通知表での所見の記述について考える機会と捉えていただきたいと思います。

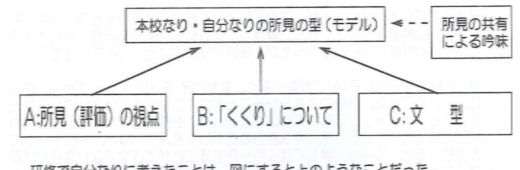
なお、今回配布の学習指導だよりは、後述のように所見文例をある本から採っている。今回の資料の最後の1ページにある「通知表の具体的な評価文例」が当日の研修に役立つのではないかと考えている。参考にしていただきたい。

トマスア 新目といへアキ 澤田幸と指導主事紹介されとが 全く同じというわけ

学習指導だより「道徳」の評価に関する覚え書き② H30. 11. 6 No.07

24日は、柳澤学級の、先生と反席のよい子供たちとのやりとりで圧倒された授業を見せていただきました。ありがとうございました。研究会のテーマが「評価・所見」だったので、こりあ個々の子を見取るのがたいへんだなあ、こういうのを嬉しい悲鳴というのかなあ、などと思いながら参観していました。まったく、主体的に活動しているときの1年生には、他の学年にはない熱量があるものです。

忘れないうちに、道徳の所見に関して研究会で考えたことを記しておきたい。



学習指導だよりの発行

事後

- ・学習指導主任より、本校としての所見文表記に関する確認事項を周知する。

4 国分寺中学校の取組

本校では、来年度からの教科化へ向けて、一時間一時間の授業を確実にを行うことを前提とし、授業作りや意見のつなぎ方、そして評価についての研修を行った。

- 月ごとの道徳の予定表の掲示
教室に月ごとの予定表を掲示した。先生方の意識の向上はもちろん、生徒にも毎週道徳の授業を確実にを行うことを示すことで授業をきちんと年計どおりに行うことができた。
- ローテーション道徳
学年の教員を1週ごとにクラスをローテーションして、教員の授業力向上と生徒理解を目指して取り組んだ。年計を参考に、それぞれの教員が副読本の内容を選び実践した。
どの学年の生徒もこの時間を楽しみにしており、とても好評であった。担任が空き時間の際に自分のクラスの生徒の変容を見取ることもでき、評価につながるのではないかと感じた。
- S&Uの研究授業
今回の指導要領の改訂によりキーワードとなっている「考え、議論する道徳」の授業づくりについては、多くの先生方から授業の組み立て方が難しいとの意見をもらった。授業を見ることにより、その方法が少しでも改善されればと思い、S&Uで研修することにした。今回は評価というよりも、発問の仕方、つなぎ方に焦点を当てた。

<グループ協議より>

- ・ 今回の価値項目が「親切」であったが、客観的なものの見方ができなかったのは授業の構成で「わたし」の気持ちだけを考える発問しかなかったからではないか。もう少し発問を吟味すべきであった。
- ・ 担任からの生徒の考えを引き出すことをつなぎはできたが、生徒同士の考えのつなぎができていなかったのも、どうすれば上手につなぐことができるのかが課題であった。

○ 成果と課題

成果

- ・ 道徳の授業を一時間一時間、確実にしようという意識の向上につながった。
- ・ 道徳の授業を客観的に見ることにより、発問の仕方や教師のつなぎ方などの研修をすることができた。また、今後の道徳の指導について話を聞くことで、授業の大切さや教師の役割などについて改めて理解することができた。

課題

- ・ 道徳についての研修を行う時間が十分にとれない。
- ・ 来年度からの評価に向けた研修が必要である。

5 道徳科の評価について（国分寺小学校の取組）

授業の評価は、学習の中で見える様子をとらえ、児童生徒の良さを認め、その成長を支えるものです。数値化したり分析的にとらえたりするものではなく、道徳的価値そのものの評価でもありません。

- ・ 記述上の注意(以下のような記述の仕方は注意を要する)

避けた方がよいこと	文 例
○道徳性そのものを評価するような表記	・～という心情が育ちました。
○児童の性格等を表記すること	・～を学習したことで、〇〇さんの性格に積極性が出てきました。
○学校生活の様子を書くこと	・ 勤労について考えたことを実践に移し、清掃に積極的に取り組みました。
○どの教科にも当てはまるような書き方	・ 授業中聞きながら聞き、自分の考えを深めることができました。
○専門的な用語を使う	・ 登場人物に自我関与し、畏敬の念について道徳的価値を深めることができました。
○否定する言い方、他と比較する言い方	・ 発言はあまりしませんが、他の児童よりもじっくりと価値について考えることができました。
○根拠がないことを書く	・ できなかった自分の経験から、正直の大切さを実感できたのではないかと思います。

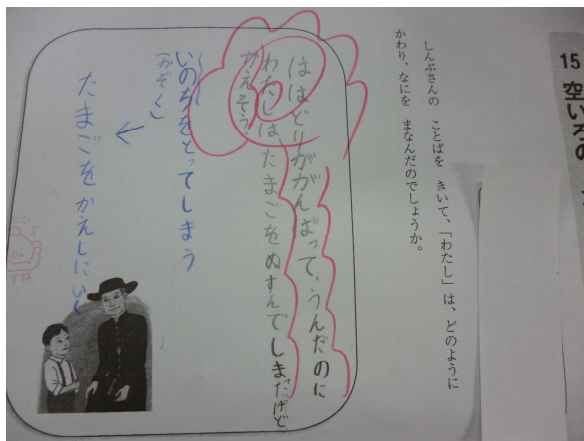
・ 評価を記述する際の文例

<p>☆価値の内容に着目したとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たとえ家族でも、相手の気持ちを考え、自分も協力しようとする思いやりが大切であることに気付きました。(親切、思いやり) ・友情信頼の授業では、友達と信頼し合うことの良さを感じ、今までを振り返って自分の行動を考えていました。(友情、信頼) ・さまざまな人たちのおかげで自分たちの生活が支えられていたことに気づき、感謝の気持ちをもつことができました。(感謝) ・自分と同じように周りの友達の命も、多くの人に支えられ守られていることに気付きました。(生命の尊さ) ・よりよい学級にするためには何が必要かをいろいろな角度から考え、自分も一員として協力していこうという気持ちをもちました。(集団生活の充実) ・不公平な態度で接することがまわりに与える影響について考えることで、公平についてのさまざまな見方に気づき、理解を深めました。(公正公平)
<p>☆学習中の学びに着目したとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材中の人物の気持ちを感じとったり、友達の意見に耳を傾けたりして家族の大切さを学んでいました。 ・グループ学習での友達の考えを聞くことにより、思いやりについて新しい視点で考えていました。 ・友達との話合いの中で、自分の考えを修正し、これからの自分のあり方について考えました。

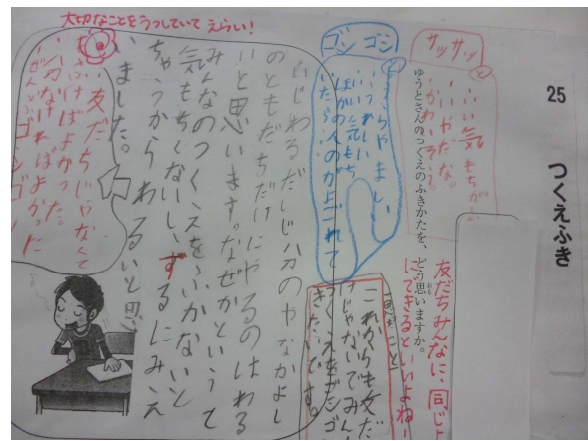
○道徳ノートの使用例

直接自分の意見を書かせる、プリントを使用し貼付させる等、様々な使用方法があります。いずれも、児童が自分の考えをまとめるのに有効でした。

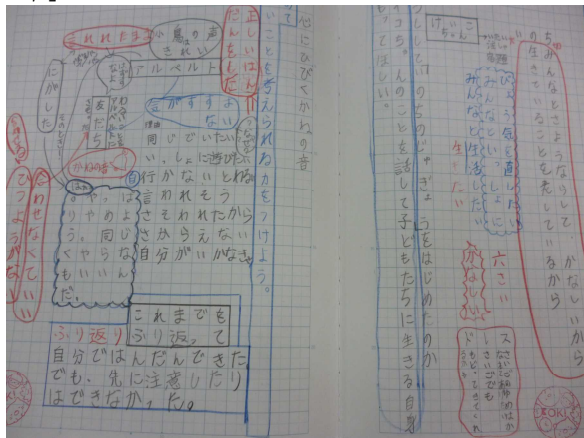
[1年]



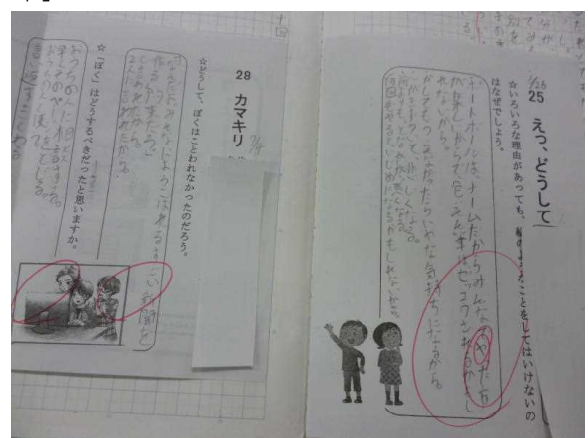
[2年]



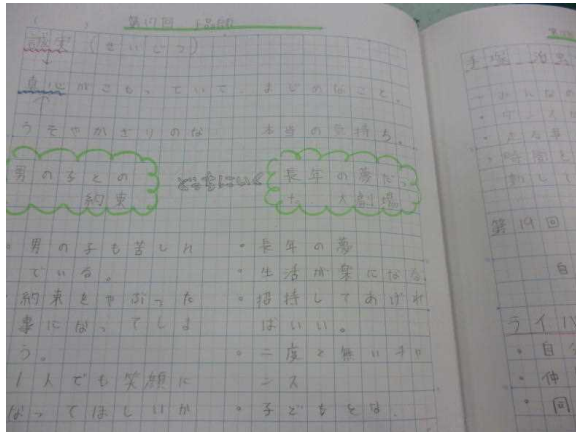
[3年]



[4年]



[5年]



[6年]

